

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は72万7288人で、前年の77万759人より4万3471人減少し、明治32年の人口動態調査開始以来最少となった。出生率(人口千対)は6.0で前年の6.3より低下し、合計特殊出生率は1.20で前年の1.26より低下し、過去最低となった。(第1表、第2表-1、第2表-2)

母の年齢(5歳階級)別にみると、出生数は15~44歳の各階級では前年より減少したが、45歳以上の各階級では増加した。合計特殊出生率の内訳は39歳以下の各階級で前年より低下したが、40歳以上の各階級では上昇した。なお、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、30~34歳の階級が最多・最高となっている。(第4表(1)、第5表(1))

出生順位別にみると、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、いずれの出生順位についても前年より減少・低下した(第4表(2)、第5表(2))。

母の年齢(5歳階級)別と出生順位別を併せてみると、合計特殊出生率の内訳は39歳以下の各階級ではいずれの出生順位についても前年より低下した(第5表(3))。

2 死亡数は増加

死亡数は157万6016人で、前年の156万9050人より6966人増加し、調査開始以来最多となった。死亡率(人口千対)は13.0で前年の12.9より上昇した。(第1表、第2表-1)

死因別にみると、前年と同様、死因順位第1位は悪性新生物<腫瘍>で死亡数は38万2504人(死亡総数に占める割合は24.3%、死亡率(人口10万対)は315.6)、第2位は心疾患(同14.7%、190.7)、第3位は老衰(同12.1%、156.7)となっている。

なお、新型コロナウイルス感染症の死亡数は、3万8086人(同2.4%、31.4)で第8位となっている。(第6表)

年齢調整死亡率(人口千対)は男14.1、女7.8で、男女とも前年の男14.4、女7.9より低下した(第1表)。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△84万8728人で、前年の△79万8291人より5万437人減少し、過去最大の減少となった。

また、自然増減率(人口千対)は△7.0で前年の△6.5より低下し、実数・率ともに17年連続で減少・低下した。(第1表、第2表-1、第2表-2)

4 死産数は増加

死産数は1万5534胎で、前年の1万5179胎より355胎増加し、死産率(出産(出生+死産)千対)は20.9で、前年の19.3より上昇した(第1表)。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は47万4741組で、前年の50万4930組より3万189組減少し、婚姻率(人口千対)は3.9で前年の4.1より低下した(第1表)。

6 離婚件数は増加

離婚件数は18万3814組で、前年の17万9099組より4715組増加し、離婚率(人口千対)は1.52で前年の1.47より上昇した(第1表)。